

編集後記

講義の試験には数値を求めさせる問題を少なくとも一問は出題するように心がけている。物を設計したり、実験を行う上で、物理量の具体的な数値を求められる能力を身につける事は、学生にとって必須なことと考えているからである。しかし、数式で答えさせると正解するにもかかわらず、残念ながら物理的にあり得ない数値になっていることに気づかない学生がいる。実験を行うときも必ず電卓を携帯させ、実験条件、実験結果の妥当性を確認するように指導している。ところが、簡単な計算にもかかわらず、答を得るのに大変な時間がかかる。数値がとんでもない値になっても平気な顔をしている。私の教育指導不足が最大の原因であるが、計算時に使用する電卓が体に馴染んだ道具として機能していないことにも一因があるようである。

長年、私は逆ポーランド入力の電卓を愛用している。寂しいことに、何年も前から利用者は絶滅危惧種動物並みに少なくなってしまった。入力方法が一般の電卓とは異なり

慣れるのに数日必要とすること、生産を中止していた時期があり入手が多少困難なことなどが利用者減の理由なのだろうか。この電卓の最大の特徴は、数値を入力してから計算手順を後でゆっくりと考える事ができるところにある。この便利さは一度利用してみないと理解してもらえないと「愛用者」は勝手に考えている。ただし、最大の欠点は一度触れてしまうと元の電卓には戻れない体になってしまう程、強烈な個性を持っていることである。

最近、米国の某老舗が関数電卓発売35周年を記念して新製品を発売した。私に感化されたかどうかは定かではないが、研究室の数名が購入し、利用者数が微増したもようである。興味を持たれました方は是非だまされたと思って触れてみるのも一興かと。パーソナルコンピュータ全盛のこの時期、現場での電卓の利用価値は尽き、電卓は教育学習用であるとの主張も聞かれるが、私は異を唱える。紙面が尽きたので布教活動の筆を置くこととする。(北島純男)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	松田慎三郎	副 会 長	佐藤浩之助	三間 園興	常務理事	中村 幸男 (総務委員長)
理 事	秋山 秀典 (企画委員長)		板垣 正文		今井 剛 (広告委員長)	
	奥野 健二 (プログラム委員長)		尾崎 章		加藤 敬 (財務委員長)	
	佐野 史道		田中 和夫 (編集委員長)		寺井 隆幸	
	畠山 力三		畑山 明聖		浜口 智志 (出版委員長)	
	本島 修		森 雅博 (広報委員長)			
監 事	藤山 寛		松尾 慶一			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 田中和夫 (阪大)

エディター 関子秀樹 (九大), 田中雅慶 (九大), 福山 淳 (京大), 村上匡且 (阪大), 室賀健夫 (核融合研), 行村 建 (同志社大)

編集委員 石黒静児 (核融合研), 大矢恭久 (静大理), 越智義浩 (原子力機構), 加藤太治 (核融合研), 北島純男 (東北大院工), 北野勝久 (阪大院工), 小口治久 (産総研), 後藤基志 (核融合研), 佐伯紘一 (静大理), 酒井 道 (京大院工), 榊原 悟 (核融合研), 佐藤紘一 (京大原子炉研), 佐藤 聡 (原子力機構), 佐藤杉弥 (日本工業大工), 高山有道 (核融合研), 田中照也 (核融合研), 谷口和成 (京都教育大教育), 長崎百伸 (京大エネ研), 長友英夫 (阪大レーザー研), 浪平隆男 (熊大院自然), 野崎智洋 (東工大院理工), 畠山賢彦 (東北大金研), 花田和明 (九大応力研), 林 伸彦 (原子力機構), 平田孝道 (武蔵工大工), 平松美根男 (名城大理工), 吉川正志 (筑波大院数理), 吉田弘樹 (岐阜大工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第83巻第10号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2007年(平成19年)10月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。